



久喜市合併5周年記念式典を挙行しました



▲田中市長による式辞



▲5歳の児童によるビデオメッセージ



▲井上市議会議長のあいさつ

11月24日(休)、久喜総合文化会館大ホールで、「久喜市合併5周年記念式典」を挙行しました。

記念式典には、国会議員、県議会議員をはじめ、招待者など約800人が出席し、久喜市合併5周年を祝いました。

式典で、田中暄二市長は、「この5年間を振り返ると、私は初代久喜市長として、旧1市3町それぞれの歴史や文化、伝統を大切にしながら、地域特性を生かした一体的なまちづくりを進めることを使命とし、全力を傾注して市政運営してきた」、「久喜市を県東北部の拠点都市として更なる飛躍、発展をさせるための礎は、ほぼ構築できた」、「今後も久喜市が輝かしい歴史を刻み続けるため、本市の将来像である『豊かな未来を創造する個性輝く文化田園都市』の実現に向け、全身全霊を捧げてまいります」と述べました。

また、井上忠昭市議会議長のあいさつに続き、来賓の皆さんの祝辞が述べられました。

た。

その後、中央幼稚園、あやめ保育園、栗橋白百合幼稚園、鷺宮幼稚園の5歳の児童によるビデオメッセージが放送され、会場中に子どもたちの元気な声が響き渡っていました。

また、久喜市合併5周年を記念して募集したデマンド交通の愛称・車両のデザインと原付バイクのオリジナルナンバープレートデザインの発表と最優秀賞受賞者の表彰、久喜市くき親善大使の任命が行われました。

久喜市くき親善大使に任命されたタケカワユキヒデさんには、田中市長から直接親善大使のタスキや名前入りの提燈、名刺が授与されました。

そして、タケカワユキヒデさん作詞・作曲の久喜市の歌「笑顔のまち永遠なれ」を、タケカワさんや栗橋南小学校の5・6年生の児童と一緒に来場者全員で合唱し、盛大に節目を祝いました。

